

参加：馬場、白沢、山崎、手塚、加藤、岡坂、岩、吉武、高田、藤田(文)

(加藤、岡坂、高田は安達太良山のみ)

### 3月10日(金) 雨(幸いにもチェーン不要)

山崎・岩の両氏は岩号、白沢・手塚・吉武・藤田の4名は吉武号にて出発、磐梯熱海の馬場さん宅に向かう。吉武号は首都高速の渋滞に巻き込まれ磐梯熱海のICに着いたのが午前1時。馬場さんに迎えにきてもらう。岩号は千葉発で我々よりもずっと早く到着していた。

### 3月11日(土) 雪(ガス)

当初の計画ではこの日は磐梯山に行く予定であったが、悪天のためデコ平でお茶を濁すことにする。馬場さん宅から2台の車に分乗して出発、途中49号線から分かれるところで吉武号はチェーンを着ける。グランドコススキー場に着き、身仕度を整えゴンドラで上部に向かうとするが、待つこと40分の大混雑。リフトを1本乗り継ぎゲレンデ最上部、1350mでシールを着け12時15分に西大天巔に向け登高開始。トレースは無く前日からの新雪が深く、スキーをはいていても膝までのラッセルで苦勞させられる。しかも湿雪なのでスキーのトップがなかなか出てくれない。ラッセルを交替しながら針葉樹林の中をぬうように登る。視界は50m程度であろうか。樹林帯なので風はあまり感じない。14時半に1750m地点に到達、灌木帯になり風雪が強まるあたりで引き返すことにする。視界がきかないので登ってきたトレースをたどりながら滑る。深雪のため転倒すると起きあがるのが大変である。ゲレンデ最上部着15時30分。ゲレンデ下には15時50分であった。車に乗り込み馬場さん宅へと引き返す。この日、後発部隊と合流するのに行き違いがあり全員が到着するのに手間取ってしまった。待ち合わせの時間やおちあえなかった時の手順など良く確認が必要である。

### 3月12日(日) 曇(上部はガス)

前夜の打ち合わせの結果、天気や足並み帰路の渋滞などを考慮し安達太良山に行くことにする。馬場さん宅を4台の車で出発し安達太良高原スキー場に向かう。駐車場でシールを着けゴンドラで上部に向かう。五葉松平のゴンドラ終点は標高1320m、山頂まで400m足らずの登りである。9時50分に出発、雪は前日のデコ平と違い比較的しまっておりトレースもあるので、なだらかな斜面を快調に登る。この斜度ならテレマークスキーでも行けそうだ。五葉松平はガスの下で山麓まで視界がきく。途中何組かの山スキーヤーや登山者とすれ違うが、ツボ足では膝までもぐり結構つらそうだ。1500mを過ぎ、やや斜度がきつくなるあたりからガスの中に入り視界は20m程度になる。山頂着11時20分、何も見えない。風はほとんど無い。10人ほどの山スキーヤーが休憩している。滑降ルートを検討した結果、馬場さんの先導で勢至平へ下ることにする。11時50分滑降開始。出だしはやや急な斜面。雪はおもく板がまわらない。北にトラバース気味に滑り、10mほど登り返すと峰の辻(標高1600m)に12時30分着。ここでろがね小屋への道と分かれ、籠山の北面をまいて勢至平へと下っていく。ところどころ赤布が立っている。このあたりからガスがきれ出す。勢至平の末端で林道に出会ったのが13時30分。道なりだとスキーが滑らないのでショートカットしながら樹林の合間を滑るが、まもなく低灌木が密集した斜面になり夏道通りにしかルートがとれず、スピードコントロールがきかない。転倒し板がはずれる人もあり難渋する。ようやくゲレンデ、ブルーラインというリフトの上部にでたのが14時50分。足並みが揃わなかったこともあり、かなり時間がかかってしまった山行であった。

なお今回の山行で、馬場さんには宿泊と宴会の場所をご提供いただいたうえガイドまでしていただき大変お世話になりました。誌面ではありますが改めてお礼申し上げます。

(文責：藤田)